

Environmental

環境

環境ビジョンと環境長期目標

▶ 「環境ビジョン」と
「日立環境イノベーション2050」

環境行動計画

環境ガバナンス

脱炭素社会の実現

高度循環社会の実現

自然共生社会の実現

環境データ

環境ビジョンと環境長期目標

「環境ビジョン」と「日立環境イノベーション2050」

方針

目標

GRI 2-23

日立は、世界で深刻化する環境課題の動向と自らの経営方針を踏まえ、長期視点でめざす社会の姿を明確にした「環境ビジョン」を定めています。この実現に向け、「脱炭素社会」「高度循環社会」「自然共生社会」の構築を掲げた環境長期目標「日立環境イノベーション2050」を策定し、推進しています。

「脱炭素社会」の実現に向けては、国内外でバリューチェーン全体での脱炭素化とそれに伴うグリーントランスフォーメーション(GX)の動きが加速しています。日立は、事業所(ファクトリー・オフィス)において2030年度までにカーボンニュートラル達成、バリューチェーンを通じて2050年度までにカーボンニュートラル達成という目標を掲げ、取り組みを推進しています。

「高度循環社会」の実現に向けては、持続可能な社会の実現をめざすため「サーキュラーエコノミー」への移行を念頭に、日立が使用する水・資源の利用効率を2050年度までに50%改善(2010年度比)することをめざしています。

「自然共生社会」の実現に向けては、2022年12月に開催された「生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)」や、「自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)」といった国際的なイニシアティブの動向を注視しながら、自然資本へのインパクトを最小化するための取り組みを進めています。

この環境長期目標の達成を含む環境活動は、3年ごとの短期的なアクションプランである「環境行動計画」で定め、日立グループ全社で取り組んでいます。

▶ 環境ビジョンと環境長期目標「日立環境イノベーション2050」

環境ビジョン

日立は、ステークホルダーとの協創による社会イノベーション事業を通じて、環境課題を解決し、生活の質の向上と持続可能な社会の両立を実現する。

日立が環境経営でめざす姿



脱炭素社会

気候変動の緩和・適応



高度循環社会

省資源・再資源化



自然共生社会

生態系の保全

環境長期目標

2050年・2030年を見据えた日立の決意

日立環境イノベーション2050

脱炭素社会をめざすために

バリューチェーンを通じて
2050年度
カーボンニュートラルの達成
2030年度
CO₂排出量 **50%**削減(2010年度比)

事業所(ファクトリー・オフィス)
2030年度
カーボンニュートラルの達成

高度循環社会をめざすために

お客さまや社会とともに
水・資源循環型社会を構築
水・資源利用効率

2050年度 **50%**改善
(日立グループ内 2010年度比)

自然共生社会をめざすために

自然資本への
インパクトの

最小化

環境行動計画

長期目標を実現するために、3年ごとに環境活動項目と目標を設定

■ P.035 脱炭素社会の実現
 ■ P.050 高度循環社会の実現
 ■ P.055 自然共生社会の実現

Environmental

環境

環境ビジョンと環境長期目標

▶ 「環境ビジョン」と 「日立環境イノベーション2050」

環境行動計画

環境ガバナンス

脱炭素社会の実現

高度循環社会の実現

自然共生社会の実現

環境データ

日立環境イノベーション2050の進捗

目標

活動・実績

「日立環境イノベーション2050」を達成するための主な目標の進捗は以下のとおりです。概ね予定どおりに進捗していますが、目標の達成に向けて、さらに環境活動を強化していきます。脱炭素社会をめざすバリューチェーンの長期目標に対しては、トップレベルの製品の提供を通じて、CO₂排出量削減につながる活動を展開していきます。

脱炭素社会をめざすために

▶ CO₂排出量削減(事業所(ファクトリー・オフィス))

	2022年度(目標)	2022年度(実績)	2030年度(目標)	2050年度(目標)
CO ₂ 総量削減率 (2010年度比)	32%	40%	100%削減 (カーボンニュートラル)	(100%削減を継続)

高度循環社会をめざすために

▶ 資源利用効率改善(事業所(ファクトリー・オフィス))

	2022年度(目標)	2022年度(実績)	2030年度(目標)	2050年度(目標)
廃棄物有価物発生量 原単位改善率 (日立グループ内 2010年度比)	14%	16%	—	50%改善

▶ 水利用効率改善(事業所(ファクトリー・オフィス))

	2022年度(目標)	2022年度(実績)	2030年度(目標)	2050年度(目標)
水使用量 原単位改善率 (日立グループ内 2010年度比)	22%	27%	—	50%改善

Note: 実績に対する活動の詳細は、当該ページで解説します

Environmental

環境

環境ビジョンと環境長期目標

▶ **「環境ビジョン」と「日立環境イノベーション2050」**

環境行動計画

環境ガバナンス

脱炭素社会の実現

高度循環社会の実現

自然共生社会の実現

環境データ

グリーン戦略

考え方

サステナブルな成長を実現するグリーン戦略

日立は、社会イノベーション事業を通じて環境課題の解決に貢献します。社会の脱炭素化への貢献で他社をリードするClimate Change Innovatorになることをめざし、2つの柱、日立グループのグリーントランスフォーメーションを加速する“GX for CORE”、お客さまと社会のグリーントランスフォーメーションへ貢献する“GX for GROWTH”からなるグリーン戦略を策定しています。GX for COREとGX for GROWTHを両輪で進めることによって技術やノウハウの深化を加速し、日立が提供する環境価値を継続的に向上させていきます。

日立は、このグリーン戦略を進めることで、脱炭素社会、高度循環社会、自然共生社会の実現に貢献します。

📍 日立のグリーン戦略



Environmental

環境

環境ビジョンと環境長期目標

「環境ビジョン」と
「日立環境イノベーション2050」

▶ 環境行動計画

環境ガバナンス

脱炭素社会の実現

高度循環社会の実現

自然共生社会の実現

環境データ

環境行動計画

日立は、「環境ビジョン」と環境長期目標「日立環境イノベーション2050」の実現に向けて、中期経営計画の期間に合わせ、3年間の指標と目標を設定した「環境行動計画」を策定し、環境活動を着実に進めています。

2024環境行動計画(2022-2024年度)

目標 活動・実績

日立は、2024中期経営計画の策定に合わせて設定した「2024環境行動計画」(2022-2024年度)のもと、環境活動に取り組んでいます。2022年度に設定した目標と実績は以下のとおりです。

2024環境行動計画

環境長期目標を実現するために、3年ごとに環境活動項目と目標を設定

◆◆◆：達成 ◆◆：一部達成

項目		指標	2022年度目標	2022年度実績 (達成状況)	2023年度目標	2024年度目標 (最終年度)
環境マネジメント		環境人財育成	環境人財育成の推進	環境人財育成の推進	世代など人員構成の変化を考慮した環境人財の育成	
脱炭素社会	ファクトリー・オフィス	CO ₂ 総量削減	CO ₂ 総量削減率*1(2010年度比)	32%	◆◆◆ 40%	35% 50%
		輸送原単位改善(日本)	輸送エネルギー原単位改善率(日本)*2(2020年度比)	2%	◆◆◆ 14%	3% 4%
	製品・サービス	製品・サービスのCO ₂ 排出量削減	CO ₂ 排出量原単位削減率(2010年度比)	12%	◆◆◆ 15%	13% 14%
		エコデザイン推進	CO ₂ 排出削減貢献量	目標：CO ₂ 排出削減貢献量1億トン/年(2024年度) 見通し：CO ₂ 排出削減貢献量1億2,610万トン/年*4		
高度循環社会	ファクトリー・オフィス	資源利用効率の改善	埋立廃棄物ゼロ 達成事業所数*3	90	◆◆◆ 199事業所	124 158
			廃棄物有価物発生量原単位改善率(2010年度比)	14%	◆◆◆ 16%	17% 20%
			水使用量原単位改善率(2010年度比)	22%	◆◆◆ 27%	23% 24%
			プラスチック廃棄物の有効利用率	77%	◆◆◆ 88%	81% 85%
水リスク	水リスクへの対応	水リスクへの対応	水リスクに係わる事業影響の最小化			
自然共生社会	化学物質	化学物質排出量の削減	化学物質大気排出量原単位改善率(2010年度比)	5%	◆◆◆ 21%	6% 8%
	生態系保全	自然資本へのインパクト	負のインパクト算出(BU・グループ会社単位でのLCA実施)/正のインパクト算出(森林保全活動)			

*1 自社で消費したエネルギーによるCO₂排出量削減の指標

*2 日本国内の目標であり、日本以外については任意目標

*3 規制や条件に適合している場合の取り組み。0.5%未満

*4 3年平均値